

ふれあい

☎ 市青少年育成市民会議 ☎42-3511

『碧結』それぞれの想いを紡ぐ ～2024二十歳を祝う会～

1月7日(日)晴天に恵まれる中、二十歳を祝う会を開催しました。昨年同様、二部制として実施しました。

毎年、実行委員が一年をかけて企画から運営まで創り上げていくこの会。碧南市の二十歳のためにつくられた曲『HEKIREKI』を引き継ぎ、和太鼓に挑戦しました。和太鼓の力強い演奏に参加者は引き込まれました。さらに今年はWANIMAさんの『ともに』を、和太鼓とDJとのコラボレーションで演奏することにも挑戦しました。フィナーレでは参加者全員でライトを光らせ、立ち上がって歌うなど、まるでライブ会場のような雰囲気に、「参加者も一体となって楽しめる会にしたい」。実行委員の願いが実現した会となりました。



『碧結』～碧南から始まる物語～

二十歳を祝う会実行委員長 久田 誠也

二十歳を祝う会を多くの方々のご協力とご指導のもと、無事開催することができましたことを、深く感謝申し上げます。

今年のテーマは『碧結～碧南から始まる物語～』。私たちはここ碧南で生まれ育ち、20年間歩んできました。それぞれの場所で成長してきた私たちが、20歳という節目を迎え、ここからまた新しい物語を始めたい、この碧南で結ばれた縁を大切にしていきたいという想いをこのテーマに込めました。

私たち実行委員10名は、先輩方が紡いでくれた「和太鼓演奏」に今年も挑戦することにしました。昨年の演奏とは違ったものにして先輩方を超える演奏がしたい、参加者が全員で楽しめるものにしたいと思い、和太鼓にアレンジを加えながら、3ヶ月間練習を重ねてきました。意見の食い違いや式に対する気持ちに温度差ができることもありましたが、その度に話し合ったり声を掛け合ったりして、最後は全員同じ気持ちで式典に臨むことができました。

本番では、沢山の方々の前で発表をし、とても緊張しましたが、今まで準備してきたことに自信をもって演じることができました。

式の途中、2曲目に演奏した「ともに」で、会場全体が一つになったときは達成感で涙が止まりませんでした。あの瞬間をこれから先も忘れることはないと思います。

これからの私たちには、沢山の物語が待っていることでしょう。その物語をどのようにしていくかは自分次第になってくると思います。しかし、その物語の原点としてあるのは、私たちが生まれ育った街である碧南です。

いつか碧南に帰ってきたときに、これまで出会ってきた方々に恩返しができるように、私たちはここで結ばれた仲間たちと今を歩んでいきます。



第20回「親子キャッチ575」 最優秀作品と表彰式

青少年育成市民会議

「親子キャッチ575」の作品募集に、市内の小中学校、高等学校からたくさん応募をいただき、3,516点の作品が集まりました。

そして、多くの方に祝福していただこうと、令和5年10月29日(日)に行われた碧南市文化祭芸能発表会の中で表彰式を行いました。文化会館ホール舞台上で、最優秀作品、優秀作品の合計30点を表彰し、多くのみなさんに祝福していただきました。

昨今の世界情勢を受け、作品テーマに「戦争のない、平和な世界への願いや想い」を昨年度より加えました。家族の中での触れ合いや話し合いを通して、平和への願いを綴った作品がたくさん寄せられ、今年ならではの作品が集まりました。また、それぞれの思いが込められ、家族の絆や温かい家族の様子が伝わってくる作品も例年同様たくさん見られました。



第20回親子キャッチ575最優秀作品

ぼつりよくは
からだもこころも きずがつく
中央小学校一年 堀 菜尋
言葉でも
心に深い きずがつく
父

おかあさん
なんでそんなに たべれるの
日進小学校二年 高坂さくら
もつたいない
気持ちや大事に やせられず
母

四年ぶり！
えがおのばあちゃん そのまんま！
新川小学校三年 割貝仁乃助
ああ！会えた！
かわらぬ笑顔 たからもの
母

「がんばって」
母の言葉に 勇気出る
中央小学校四年 鳥居 美月
がんばった
あなたの姿に 涙出る
母

ちよつと待て
それはいけない いじめだぞ
西端小学校五年 若松 泉吹
立派だよ
友達に言える その勇氣
母

あこがれる
投げて打つての 二刀流
大浜小学校六年 角谷 礼
夏休み
スマホとテレビの 二刀流
母

見上げてた
母の笑顔が 横にある
新川中学校一年 長谷川 菜央
気付いたら
背丈も態度も 一丁前
母

やめてよね
授業参観 手を振るの
東中学校二年 小澤 虹南
見に来てね
毎日言われりゃ 手も振るよ
母

大輪の
花火横目に 机向く
中央中学校三年 片山 璃乙
娘見て
ビール開けるか 悩む父
父

手作りの
弁当食べて 元気出る
碧南高校一年 澤 大我
空っぽの
弁当箱見て 疲れとぶ
母

碧南市おやじの会

おやじの会の活動のねらいは、「父親同士の交流を図って連帯感を高めること」「子育てを母親任せにしないで、父親も家庭教育に関心をもつこと」「子どもの理解を深め、子どもからの信頼を得ること」です。親子参加型のイベントを工夫し実践することで、地域ぐるみでの子育て、親育ての一助を担っています。

みんなあつまれ どろんこまつり ～7月16日(日)～

碧南市の市制75周年記念事業として、西端地区の農業者コミュニティセンター北側の田んぼで開催しました。対象を市内在住の小学生親子200名として募集し、企画から当日の運営まで、各地区おやじの会が協力して実施しました。当日は晴天に恵まれ、絶好のどろんこ日和となりました。親子玉入れから始まり、どろんこフラッグ、ボート引き、ターザン、最後にもち投げ（ボール投げ）と、様々な競技を親子泥だらけになりながら楽しみました。



元気ッス！へきなん ～7月29日(土)～

地域の活性化、盛り上げの一助となるよう、「元気ッス!へきなん」に出店者として、またパレード参加者として各地区おやじの会が参加しました。子どもたち向けの射的やヨーヨーつり、ポップコーンやピザの販売など、おやじの会スタッフが各地区で実施してきたイベントで培った経験を生かして様々な出店を行いました。また、中学生ボランティアを20名近く受け入れ、ゲームの補助や呼び込みなどをスタッフと協力しながら力を合わせて運営しました。

サッカー少年団から 見えるふれあい

碧南少年サッカー連盟 杉浦弘晃

大人と子どもの関係は日々変わっています。私が子どもだった頃の親・コーチとの関係と、大学になる息子が小学生だった頃の私との関係、また現在の小学生と親の関係も変わってきているように思います。

サッカー少年団のコーチとして、その変化は指導方法にも表れていると感じます。ふれあいを持って取り組むようになりました。練習を強いるのではなく、子どもの表情を見てより楽しく、モチベーションが上がる練習を、と考えるようになってきています。自分の息子にはあまりモチベーションのことを考慮に入れた指導を行っていませんでした。

また、チームに目を向けると、学年により差はあるものの、親の関心が高い(ふれあいが多)い学年ほど、子どものサッカーに対するモチベーションが高く、その結果として、チームは強くなる傾向にあります。

サッカー少年団において、大人と子どもとのふれあいは、子どもにモチベーションを与え、そのモチベーションが子どもの上達を促し、いい流れを生み出すように思います。



挑戦や熱中できる何かの きっかけになるように

碧南市父母の会連絡協議会 石川晴将

私は子どもの頃から、母の影響でピアノに親しんでいます。

2人の息子ともいつか一緒に音楽を楽しめるようになりたいと思い、毎日一緒にピアノの前に座るのですが、読譜や指遣い、休符のとり方など、苦戦する場面が多く、なかなか根気よく練習する意欲に結びつかないようです。

本人に上達したい意思はあるようなので、親である私にできることは、無理やり練習させるのではなく、『お父さんが楽しく弾いている姿を見せること』だと思いました。

こども園で馴染みのある曲を弾いて一緒に歌ったり、市のイベントのバンド演奏で活躍(?)している姿を見せたりしている影響もあってか、少しずつですが自発的にピアノに向かうことが増えてきたように感じます。

子どもは親がしてほしいと思うことを必ずしもしてくれるとは限りませんが、私自身も経験したように、子どもが何かに挑戦したり、熱中できるきっかけや、良い刺激を与えられる親であり続けたいと思います。